

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ピュアラインII・ナノデス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	△RG 0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ピュアラインII・ナノデス

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ピュアライン・ナノデス

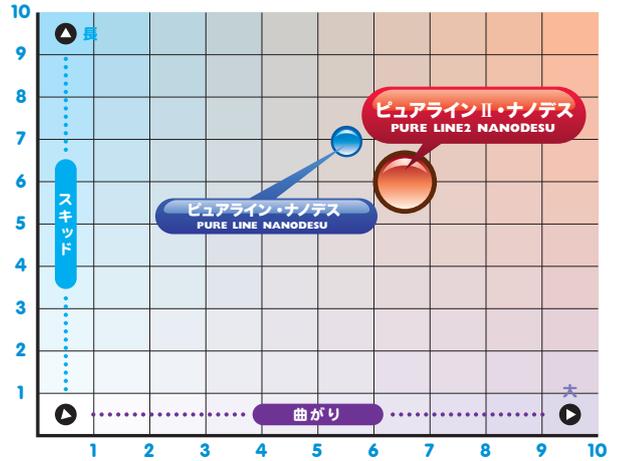
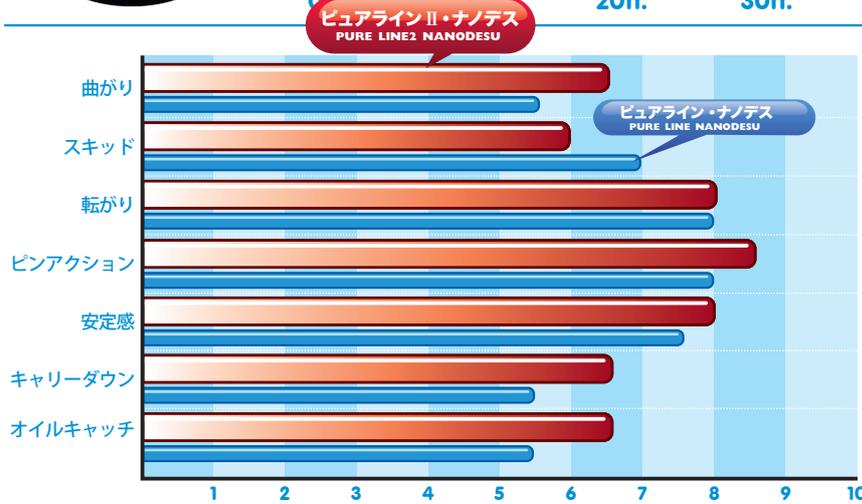
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

私は最近初代ピュアラインをウッドベースのコンディションで使用する機会がありましたが、リアクティブのカバーストックはどんなに光らせてもオイルの薄い、もしくは削れて無い状態では過敏な反応を引き起こし、急激にラインの乱れを生じます。しかしウレタン素材のピュアラインはリアクティブ素材が過敏に反応してしまう部分を柔らかな反応で越えることができ、結果的にポケットヒットまでのラインや角度の自由度も増えました。ウレタン素材を使用する「うま味」は、「コンディションが遅くなってから」という表現で間違っていないかもしれませんが、過激にボールに反応を起こさせないということでしょう。リアクティブベースのボールはオイルに強く、オイルゾーンを抜けてからの反応が鋭いため、急激に向きを変えることでポケットへの入射角を取りやすくする利点もあれば、その反応が逆に邪魔をし、ポケットへのラインを早期に逸脱する宿命も背負わなければなりません。今回のピュアラインIIは前回ピュアラインよりキャッチ感を強め、オイルがある早い段階から使えるように曲りからピンアクションに至るまで総合的にパフォーマンスを向上させています。このスペックで仕上げることで、ミディアムコンディションにおける急激なラインへの変化への負担を軽減させ、従来のリアクティブより数倍耐久性を持つウレタン素材がボウラーの経済をも軽減させるでしょう。皆様に特に感じて頂きたいのは、ウレタン素材であってもミッドエリアから大きく弧を描こうとするモーションポテンシャルと、リアクティブと肩を並べるくらいの柔らかいピンアクションです。国産ならではの細部にまで手をかけた製品ですので、現代になぜウレタン素材なのかを納得させられるだけの自信作です。

特記事項

ABSが誇る衝撃吸収システムがウレタン素材とは思えないほどの柔らかいピンアクションを実現。過激なリアクションよりもマイルドな軌道を好む、通な性能です。